

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

乳癌検診学会検診全国集計から見た検診受診者数の変化
-対策型、任意型検診別の検討-

“研究分担者 笠原善郎 恩賜財団福井県済生会病院 病院長

研究要旨

乳癌検診学会全国集計報告にて報告された2012年度から2022年度の登録受診者数を任意型検診、対策型検診別に抽出し、経時変化を含め検討した。対策型、任意型検診受診者は、概ねそれぞれ6対4であり、任意型検診受診者割合が年々増加の傾向にあった。2020年の新型コロナウイルス感染症蔓延で受診者総数を減じたが、特にその傾向は対策型検診で著明で2022年度時点ではまだコロナ前には復していない。一方任意型検診ではその落ち込みは軽度で翌年には総数を回復した。

乳がん検診受診者は、ここ10年で任意型検診の割合が増加し、その傾向は新型コロナウイルス感染症で加速した可能性がある。乳がん検診の受診率向上を目指すうえで、対策型検診のみならず任意型検診の現状把握と受診勧奨や精度管理が今後さらに重要な課題である。

A. 研究目的

乳がん検診受診者数の推計は、国民生活基礎調査による推計値が用いられるが、対策型検診、任意型検診別の受診状況とその経時変化は明らかではない。今回乳がん検診学会全国集計報告のデータを活用し検討した。

B. 研究方法

乳癌検診学会全国集計報告（乳癌検診学会HP）にて2012年度から2022年度の登録受診者数を任意型検診、対策型検診別に抽出し、経時変化を含め検討した。

（倫理面への配慮）

集団の数値データを検討したため、倫理面での課題はないと判断した。

C. 研究結果（表1.図1）

登録施設数は262～305施設で多少の増減はあるがほぼ横ばいであった
総受診者（登録者）数は215～270万人で2019年度までは増加したが2020年度の新型コロナ

感染症蔓延時期に220万人まで落ち込み、2022年度でも240万人台と2019年（コロナ前）レベルには回復していない。

対策型、任意型の占める割合についてみると任意型検診が35%前後から40%以上に徐々に増加傾向にある。

対策型、任意型に分けて受診者数の経時変化を見ると、対策型では2019年の270万人が最高でその後新型コロナウイルス感染症蔓延一年目の2020年度に215万にまで減じ、2022年段階でもまだコロナ前に復していない。

一方、任意型検診では、新型コロナウイルス感染症蔓延一年目2020年度に100万人から93万人にいったん減じたが、2021年度には103万人とコロナ前に復していた。

D 考察

乳癌検診学会の全国集計は、検診実施機関にデータを登録してもらうため、任意型検診

データも把握、分析できる利点がある。ただし全施設が登録に協力しているわけではなく、正確な全国の現状までは反映していないが、270 万人規模のデータなので、大きな傾向分析は可能である。

対策型、任意型検診受診者は、概ねそれぞれ 6 対 4 であり、任意型検診受診者割合が年々増加の傾向にあった。2020 年の新型コロナウイルス感染症蔓延で受診者総数を減じたが、特にその傾向は対策型検診で著明で 2022 年度時点では特にまだコロナ前には復していない。一方任意型検診ではその落ち込みは軽度

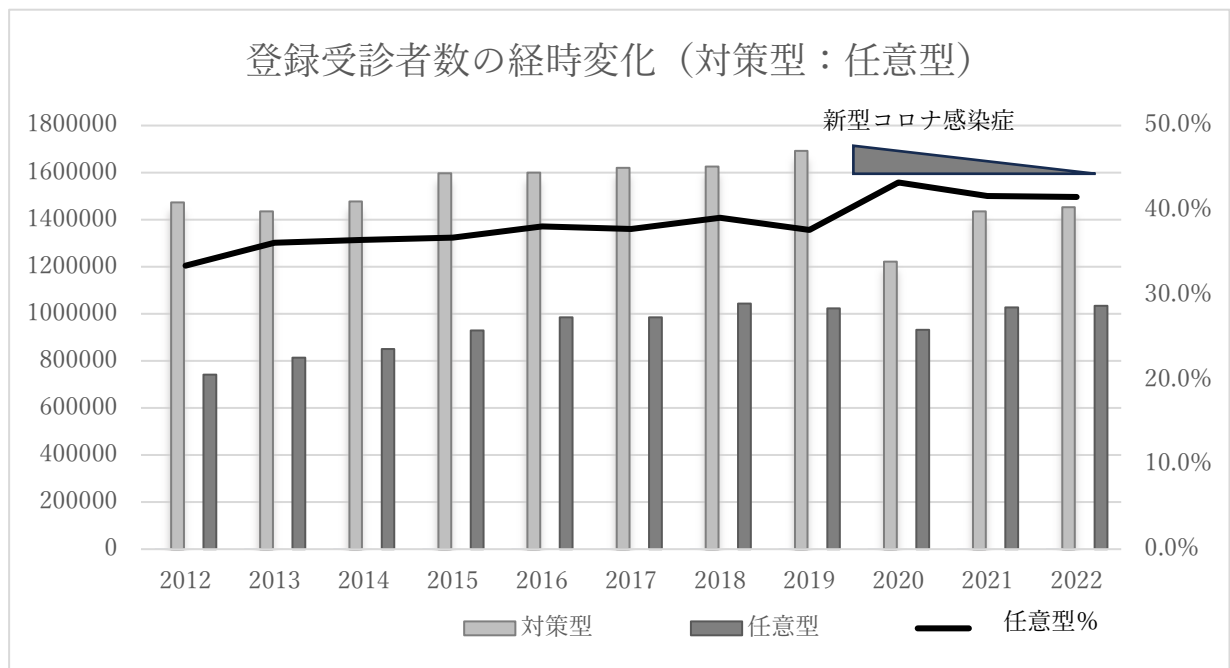
で翌年には総数を回復した。今後の動向を見る必要があるが、もともと任意型検診の増加傾向があったが、新型コロナウイルス感染症を機に拍車がかかり、今後もその傾向が持続する可能性が示唆された。

E. 結論

乳がん検診受診者は、ここ 10 年で任意型検診の割合が増加し、その傾向は新型コロナウイルス感染症で加速した可能性がある。乳がん検診の受診率向上を目指すうえで、対策型検診のみならず任意型検診の現状把握と受診勧奨や精度管理が今後さらに重要な課題である。

乳癌検診学会全国集計による検診受診者数の経時変化

対象年度	登録施設数	総登録者数		対策型	%	任意型	%
2012	291	2,215,242		1,473,982	66.5%	741,260	33.5%
2013	262	2,249,033		1,435,246	63.8%	813,787	36.2%
2014	281	2,327,926		1,477,850	63.5%	850,076	36.5%
2015	278	2,527,055		1,597,761	63.2%	929,294	36.8%
2016	283	2,585,347		1,600,155	61.9%	985,192	38.1%
2017	284	2,604,602		1,619,837	62.2%	984,765	37.8%
2018	289	2,669,930		1,625,920	60.9%	1,044,010	39.1%
2019	297	2,714,477		1,691,922	62.3%	1,022,555	37.7%
2020	292	2,153,326		1,221,331	56.7%	931,995	43.3%
2021	301	2,462,798		1,435,790	58.3%	1,027,008	41.7%
2022	305	2,487,285		1,453,543	58.4%	1,033,742	41.6%



F. 研究発表

1) 国内

1. 口頭発表 2 件
原著論文による発表 3 件
それ以外（レビュー等）の発表 1 件

2. 論文発表

・原著論文

- 1) ブレスト・アウェアネス、誰が広げるその考え方と実践：放射線技師による取り組み著書・総説
笠原善郎、朱 劼琪。日本乳癌検診学会誌 35 (1) 38-42. 2026

- 2) 乳がん検診の全国集計 2022 (対象 2019 年度)
笠原 善郎, 辻 一郎, 古川 順康. 他 日本乳癌検診学会誌 32 (1) 67-76 2023

- 3) 乳がん検診の全国集計 2023 (対象 2020 年度)
笠原 善郎、安藝 史典、宇佐美 伸、他 日本乳癌検診学会誌 33 (1) 59-67 2024

・それ以外のもの

- 1) 第 46 回がん検診のあり方に関する検討会
『対策型乳がん検診における「高濃度乳房問題」の対応に関する提言』発出後の高濃度乳房に関する研究班の研究経過、成果について
2026 年 3 月 23 日 Web 開催 笠原発表

2. 学会発表

1. 第 33 回日本乳癌検診学会 学術総会
2023.11.24 福岡市

第 13 回乳癌検診学会全国集計報告 2020 年度版 (292 施設) 事業評価の観点から
日本乳癌検診学会全国集計委員会
笠原 善郎、安藝 史典、宇佐美 伸、大村 東生、隈 浩司、白岩 美咲、高橋 宏和、辻 一郎、角田 博子、中嶋 啓雄、増田 裕行、森田 孝子、山口美樹、山口由美

2. 第 35 回日本乳癌検診学会 学術総会
2025.11.28 高知市

シンポジウム 2：多職種がささげるブレストアウェアネスの推進と課題

「ブレスト・アウェアネス」誰が広げる、その考え方と実践

恩賜財団福井県済生会病院 乳腺外科
笠原善郎、加藤久美子

3.

2) 海外

- 口頭発表 0 件
原著論文による発表 0 件
それ以外（レビュー等）の発表 0 件

G. 知的財産権の出願、登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし